

私情協対話集会

平成29年12月16日（土）於：早稲田大学

- 話題提供分野：社会福祉学
- 話題提供者：山路克文
(皇學館大学現代日本社会学部教授)
- テーマ：
「福祉計画策定のために地域連携を目指したアクティブ・ラーニング」

アクティブ・ラーニング対象科目 「現代日本演習Ⅰ」

（社会福祉学基礎演習）

- 対象学年：2年
- 対象学生の範囲：社会福祉分野を希望する学生
- 資格取得の有無にかかわらず教養としての社会福祉学を希望する学生
- 科目設定期間と単位：通年科目、4単位

現代日本演習（Ⅰ）とは

- 現代日本社会学部のディプロマ・ポリシー
- 5. 課題解決に対して、リーダーとして貢献できるだけの倫理観、洞察力、コミュニケーション力、実践力、応用力を有し、制約された条件下においてもその能力を創造的に駆使できる。

ディプロマ・ポリシーの実践

- ・ 1年前期：初年次ゼミ
- ・ 1年後期：「リーダーシップ
セミナー」
- ・ テキスト：
 シヨーン・コヴィー著
 「7つの習慣」（キングベアー出版）
- ・ 方法：前半は講義形式・後半は指導教員単位で演習
 講義は学部教員全員の輪番担当
 教員は毎回全員出席

現代日本演習 I の5つの柱

- 「現代日本演習 I」は、リーダーシップ・セミナー後の分野別でディプロマ・ポリシーの実践という位置付けになっている。
- 1. 他者理解のための思考力、判断力
- 2. 自分の考えを正確に伝える表現力
- 3. 他者にかかわるための主体性
- 4. 他者にかかわるための多様性
- 5. 他者にかかわるための協働性
- 前期は1と2
- 後期は3と4と5

「現代日本演習Ⅰ」の具体的な内容（平成29年度の例）

- 前期①
- 1. 各人が社会福祉分野の関心ある文献を5冊選ぶ。
- 2. 1週間で読み込み、A41枚程度に、内容の要約と考察を書く
- 3. 4～5人のグループを編成し、感想文を本人ではなく他人が読む
- 4. その日は、4～5冊の文献をグループ全員が共有する。

前期②

- グループで、読みあわせをした文献をゼミ生全員が共有するために、夏休み前にグループ単位で発表会を開催した。
- これによって、社会福祉に関する文献を一人5冊×グループ人数×グループ数、で少なくとも一人80冊前後の文献を知ることになるが、もちろん個人差は否めない。

後期①

- 後期は、主体性、多様性、協調性を高めることをねらいとした、グループ活動を中心的に、3本の柱を設定した。
 1. 福祉現場の理解：現場従事者による講義とディスカッション
 2. 地域貢献活動への参加：皇學館大学CLL活動への参加
 3. グループ研究を行い、演習の終盤で発表会を行う。

グループのメンバーは、グループの力量を共有し、誰かに負荷が集中することなく、共同作業の作品となるよう信頼関係を重視することを強調した。

CLL活動とは

- CLL活動とは、Community Learning Laboの略で、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」の一環として「伊勢志摩定住自立圏共生学」という教育プログラムの一環として、伊勢志摩地域の地域課題について体験を通じて学ぶ学修プログラムである。
- 現在20数団体が活動している。

現代日本演習Ⅰ（後期）第Ⅰの柱

1. 現場従事者の講演とディスカッション

（招聘講師のテーマ）

1. 権利擁護と成年後見
2. 精神科医療と精神障がい者
3. 医療ソーシャルワークと医療ソーシャルワーカー
4. 児童養護施設の現状と課題

45分程度の講義のあと、ディスカッションを行い、後期の課題であるグループ研究のための準備を行うという位置付けである。

現代日本演習Ⅰ（後期）の第2の柱 地域貢献活動（CLL活動）への参加

- 「伊勢市地域福祉計画・活動計画に関するリサーチおよびコミュニケーション」

参加学生（ゼミ生19人中）

- 男子：9人（内1年3人）、女子7人
- 常時活動学生 男子4名、女子3名
- マネジメント担当：
- 伊勢市社会福祉協議会地域福祉課

伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画について

- 特徴：市・社協一体型の計画
- 第1期：平成20年度策定21年～25年
 - 学生は事務局として3名参加
- 第2期：平成25年度策定26年～30年
 - 学生は地域懇談会の
ファシリテーターとして参加
- 第3期：平成30年度策定31年～35年
 - 学生は29年度CLL活動として、地域の
計画策定のためにリサーチ活動と地域との
コミュニケーション活性化に貢献

平成29年度CLL活動の概要

1. 主催者:伊勢市社会福祉協議会
2. 活動期日:29年8月1日～3月31日
3. 学生に期待する役割：
 - ①学生目線での課題抽出
 - ②地域とのコミュニケーション力の向上
 - ③福祉計画への学生の参加により、
地域の意識、福祉力の向上
4. 活動の中間報告
いきいきサロン、高齢者サロン等の活動拠点を現在18箇所、12月も3箇所の訪問を予定している。

伊勢市社会福祉大会への参加

平成30年1月30日、伊勢市社会福祉大会

●基調講演「伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画について」

山路克文

●学生と語る【わがまち伊勢】

ー地域福祉の未来を考え合う

シンポジウムー」

ー学生が参加したことで地域が

どのように変わったかー

CLL活動参加学生・社協スタッフが登壇し、
と共にフロアーからの質問や意見交換を行う